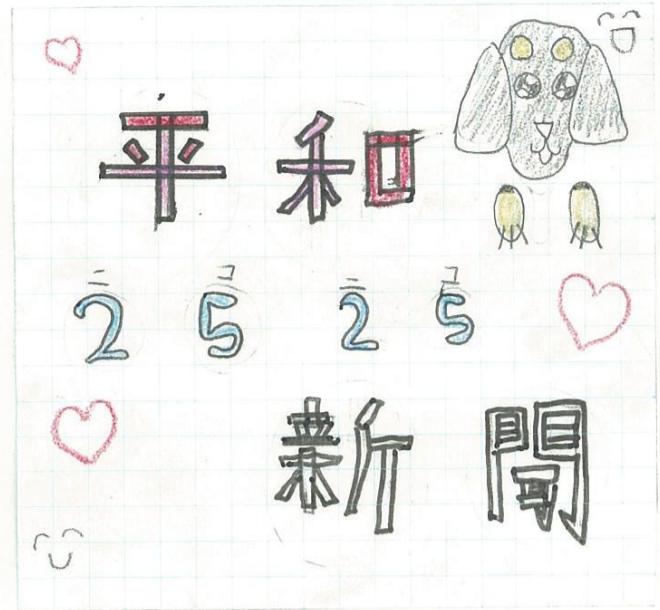


子供たちが戦争について学ぶ「コープぎふ子ども平和新聞」が7月26日、岐阜市のハートフルスクエア-Gであった。長崎原爆で被爆した木戸季市さんと平和資料室友の会の魚次龍雄さんから話を聞き、か丘器や岐阜空襲について理解を深めた。



人の命を軽くみていた日本
中学校1年 寒水希乃花

命を使ひすてのよう

に使った。そのため、

死者が多くなたと思

私は、魚次さんからう。

太平洋戦争でのアメリカは、人の命は尊い

力と日本の兵士の命へもので、絶対に大切に

の考え方の違いの話を

聞いた。アメリカは、計画を立てて乗組員の本人の命への考え方があ

うだ。一方日本は、人命を大切にしていたそゆるせない。

だから私は、当時の日

命を大切にしていたそゆるせない。



自由に生きろすばらしさ
岐阜市立茜部小学校6年早野天翔

な世の中にするため

に「がく兵器をなく

そつ」と語っています。

僕は、長崎で被爆のだと思想します。
した木戸季市さんの岐阜でも空襲にお話を聞いて心に残り、よってたくさんの被たことは自由に生き害が出ています。
木戸さんは、自由に生平和な世の中に生きるすばらしさを知りたい。

僕は、戦争のない

岐阜でも空襲に

お話を聞いて心に残り、よってたくさんの被

たことは自由に生き害が出ています。

木戸さんは、自由に生平和な世の中にし

きるすばらしさを知りたい。

ここのかうこそ、平和

